

22. 通院治療センター

“通院治療センター”の対象患者は外来で化学療法を受ける患者であり、ベッド数は12床で運用している。主な利用者は悪性腫瘍で薬物療法を受ける患者、関節リウマチや炎症性腸疾患等で生物学的製剤を使用する患者である。

年々対象となる薬剤が増え、利用患者数は増加傾向である。治療内容に関しては、悪性腫瘍に対する従来の殺細胞性抗がん薬や分子標的治療薬に加え、新規の作用機序を有する免疫チェックポイント阻害薬が保険承認され適応疾患も拡大傾向であり、治療の高度化・専門化が進んでいる現状である。

1. 述べ件数

総件数 3,080件（前年度 2,724件）

①化学療法（悪性腫瘍） 2,953件（前年度 2,588件）

②生物学的製剤 127件（前年度 136件）

【科別件数】

①化学療法（悪性腫瘍）

血液 内科	消化器 外科	消化器 内科	乳腺 外科	泌尿器 科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	口腔 外科	婦人科	耳鼻科	計
877 (皮下 注642)	799	396 (皮下 注7)	300 (皮下 注21)	257	138	103	55	24	4	2,953

②生物学的製剤

整形外科	膠原病 内科	消化器 内科	計
47	43	37	127

2. 実質患者数

実質患者数 288名（前年度 243名）

①化学療法（悪性腫瘍） 271名（前年度 221名）

②生物学的製剤 17名（前年度 22名）

【科別患者数】

①化学療法（悪性腫瘍）

消化器 外科	血液 内科	消化器 内科	乳腺 外科	泌尿器 科	呼吸器 外科	呼吸器 内科	口腔 外科	婦人科	耳鼻科	計
83	47	32	30	29	22	19	4	4	1	271

②生物学的製剤

整形外科	消化器 内科	膠原病 内科	計
7	6	4	17

3. 疾患（部位）別 実質患者数

①化学療法（悪性腫瘍）

疾患 (部位)	大腸	肺	悪性 リンパ腫	乳腺	胆膵	胃 十二指腸	尿路上皮	骨髄異形 成症候群
患者数	71	42	32	30	22	17	15	10
疾患 (部位)	腎臓	前立腺	多発性 骨髄腫	頭頸部	子宮卵巣 腹膜	食道	神経内分 泌腫瘍	計
患者数	9	5	5	5	4	2	2	271

②生物学的製剤

疾患	関節リウマチ	潰瘍性大腸炎	クローン	計
患者数	11	5	1	17

4. 今年度の振り返り

当院は湖東医療圏のがん診療連携拠点病院であり、この地域のがん診療において果たすべき役割は大きい。エビデンスに基づいたがん診療を提供する役割を担っており、新規殺細胞性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など最先端の治療を当センターでは行っている。

治療が高度化・専門化している中で患者数は増加の傾向にあり、安全で最適な治療を提供するためにチーム医療は欠かせないものとなっている。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・検査技師・ソーシャルワーカー等の多職種が連携して取り組み、全患者が専門的な治療を安心して外来で継続できることを目標に、患者の立場に立った真心のこもった治療を提供していきたいと考える。